

“MY TOWN” うおっちんで

# 歩 & 目 デス 足 & ラテス

Vol.84

## ある銭湯のアーカイブズ 〈旧保内町・清水湯〉

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・  
近代化遺産活用アドバイザー



宮内川 清水橋越しに清水湯を見る

最近では町の銭湯をすっかり見かけなくなってしまった。どこも所謂スーパージョウや公営の温浴施設ばかりとなり、それはそれで人気なんだが、あの懐かしい銭

湯の雰囲気を感じ出したいなくなった。この銭湯が無くなったのはいつだったろう。旧保内町にあった清水湯。小さいながらも味わい深く、存在感のある町の銭湯だった。手元の記録を調べると、解体されたのが平成12年の3月末だからもう20年近く前になる。きっと人々の記憶からも消えつつあるに違いない。少し振り返ってみよう。

丸い煉瓦煙突が地域のランドマークで、宮内川沿いに姿を映すレトロ銭湯。創業は中岡善四郎氏により昭和11年だから、結局64年間の営業だった事になる。写真手前に橋の欄干が写っているが、これも同年の架橋だった清水橋。この界隈の町ガイドをする際には、よく「あの二・二六事件の翌月に完成した橋で、目の

前の清水湯も同じ頃の創業。」などと案内していた頃が懐かしい。川をはさんで芝居小屋大黒座（平成2年解体）もあり、近くにも残る湧き水箇所が町名（清水町）や銭湯名になったエピソード



町田忍氏と円形浴槽を見る参加者

また、この銭湯には煉瓦積みで囲われた年代物のボイラー釜があり、それは開業時に武内木蠟工場で使用されていたものを転用して営業が始まったという歴史物件でもあった。きっと県内現役最古、と言っても過言ではないシロモノだった。保内は木蠟で栄えた史実もあって、そのハゼの実を絞った残りのガラはボイラーを焚く燃料にうってつけという地利もあった。



昭和初期か大正期か、ボイラー釜

など、当初は一連のガイドコースとしてその解説に熱を帯びるエリアだった。